

2021年11月29日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社

「インパクト志向金融宣言」への署名について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表取締役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）の連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一）および三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 ^{ながしま いわお} 長島 巖）は、本日、金融機関の経営においてインパクト志向^[1]を持ち、社会・環境課題を解決に導くことを宣言する「インパクト志向金融宣言」^[2]（以下 本宣言）に署名いたしました。

本宣言は、日本の金融業界が自律的かつ持続的にインパクト志向の投融資を発展させていくことを目的として、一般財団法人社会変革推進財団およびインパクト志向を持つ各金融機関により、新たに開始される枠組みであり、本日、設立メンバーとして21社の金融機関が本宣言に署名しています。本宣言の署名機関は、インパクト創出を組織の目的として位置づけ、創出されるインパクトの測定・マネジメントを実施した上でインパクト志向の投融資を推進するとともに、国内市場におけるその発展に向けた活動において他の署名機関と連携することが定められています。

MUFGは、自社のパーパス（存在意義）を「世界が進むチカラになる。」と定め、全てのステークホルダーが次へ、前へと進むチカラになること、そのために全力を尽くすことを企業活動の指針としており、その実現に向けて、地球環境の保全や多様性が尊重される社会の実現に取り組んでいます。その一環として、MUFGはこれまでもグリーンボンド、ソーシャルボンドおよびサステナビリティボンドの発行ならびに、インパクト投資型ファンドの運用などを通じて、再生可能エネルギーや省エネルギー事業などの環境・社会課題の解決に資する取り組みを支援し、環境・社会にもたらされるインパクトの可視化やインパクトの創出に対する貢献を進めてまいりました。

今般、三菱UFJ銀行および三菱UFJ信託銀行は、これまで取り組んできたインパクトの可視化などを通じて培ってきた環境・社会課題の解決に資するビジネス機会の発掘とリスク管理手法を高度化し、金融機関として社会から期待されている役割を果たしていくことを目的として、本宣言への署名に至りました。

今後、三菱UFJ銀行および三菱UFJ信託銀行は、本宣言に基づき、継続して環境・社会インパクト志向を持ちつつ、他の署名機関と協働して、インパクト志向の投融資発展に向けた活動を推進していくことにより、2030年の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）の達成および2050年のカーボンニュートラル実現に向け、幅広い分野における環境・社会課題解決への貢献を目指してまいります。

^[1] 投融資先の生み出す社会・環境への変化（インパクト）をとらえて、社会・環境課題を解決するという考え方

^[2] 「インパクト志向金融宣言」の詳細については、以下のリンクをご参照ください。

<https://impact-driven-finance-initiative.com/>